◎東京湾奥金沢漁港発↓中ノ瀬

ビギナーの釣りデビューは東京湾のシロギスがイチ推し

本誌APC(神奈川)／平林 潔 Kiyoshi Hirabayashi

そうそう、今年も初釣りは東京湾のシロギス釣りだった。冬のキスは脂が乗って、とても美味。でぶっちょのシロギスをおいしくいただいた。

ただシロギス釣りの盛期はやはりこれからで、5～6月に産卵のため浅場に入ってくるころが面白い。

その前哨戦ということで4月14日に東京湾奥金沢漁港の進丸に出かけた。午前シロギス乗合は、ポイントまでの行き帰りを考えると実質2時間半チョイの釣りだが、その分気軽なお散歩感覚で出かけられるのが魅力だ。

まあそれにしても、よく吹く。半端じゃない南風が吹きまくるシケ日が続いた。そのせいで釣行予定がいくつか潰れた。毎年、この時期は船宿が辛い思いをしているが、釣り人もストレスを貯め込む。

14日の午前はなんとか風が収まりそうな予報だったので、そこをピンポイントで狙った。昼からは、また強風が吹く予報だ。

▲東京湾でシロギス船を出すほとんどの船宿はレンタル用品が充実しているから手ぶら釣行も可能だ

攻めの胴つき仕掛け

当日の乗船客は僕を含めて6名で、僕の席は左舷ミヨシ。左舷トモ寄りに入ったのは、シロギス釣り初チャレの若者3人。右舷の2人は、慣れた方のようだ。

当日は潮も小さいので、テンビン式でなく、胴つき式で積極的にシャクって誘う釣りをするつもりだった。

実は試したいこともある。それはハリスの太さ。テンビン式では僕は1号ハリスを使うが、胴つき式なら1.5号か2号ハリスでもいいのじゃないかということだ。

テンビン式では仕掛けを潮に乗せて漂わせるから、太いハリスだと悪影響もある。胴つきシャクリなら問題ないはず。太めのハリスのほうが飲まれたハリの取り出しも楽だし縮れも少ない。

定刻の7時半少し前に港を離れた船は、20分ほど走って中ノ瀬の水深15メートル前後に到着。

カメラを手にしばらく様子を見たが、ポツリポツリのペースでシロギスが釣れる。15～18センチの中型だ。

しばらくして僕も竿を出した。この日は置き竿にはなかなか反応してくれない。取材しながらの釣りだから置き竿シーンも増えるのだが、竿を手にして軽くキャストし大きくシャクってからユラーッと仕掛けを落とすとアタリが出る。活性が高い日なら、置き竿でもバリバリ食ってくるのだろうが……。

それでも、1時間に10尾程度のペースでは釣れる。アタリは比較的明確で、シロギスにヤル気はあるのだろうが、バリ食いのスイッチは入らない。ハリスは1.5号を使ったが、釣れ具合に影響はない。

3人連れの若者たちも、やっと慣れてきたのか、ポツリポツリと釣れ始めた。全く釣れないんじゃないかな？ と心配していただけに、釣った魚を手にして満面の笑顔を見せてくれてホッとした。

船長は、時どき操船室から出てきて彼らの竿を手にして

知っ得！ Tips and Tricks

船釣り便利アイテム「小型ネット」

▼小型ネットは釣具店などで購入できる

バケツで泳ぐシロギスを取り出すのに小型ネットを持参するとよい。僕は頑丈な漁業用の物を使っているが、観賞魚用にも使えるものがある。アジ釣りなどの場合には、やや大きめのネットを持参している。元気に泳ぐ魚を取り出すのに苦労するので、コレがあるとメチャクチャ便利だ。

●ひらばやし きよし／月一歌舞伎の4月は、歌舞伎座・新陰陽師。猿之助素晴らしかった。寄席や歌舞伎を生の舞台で楽しむ舞台文化は大切にしたい。

アドバイスをしている。この優しさが、出船前のレクチャーを含めて、ファミリーやビギナーに人気だ。

船長のレクチャーは、船下でいいから、オモリが海底に着いたら竿にオモリ負荷をかけないゼロテンション状態で待つ。そして10秒に1回程度のペースでスーッとゆっくり大きく竿を立ててシャクるという内容だ。

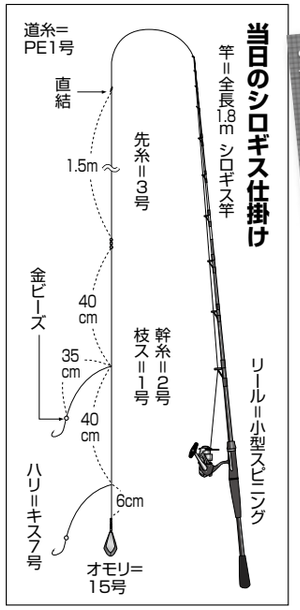
右舷トモ氏は、まずまずのムシガレイをゲット。

オッ、僕にも何やら強い引きの魚が……と、ヤリトリして浮かせたら残念ながらサメだった。

•Tackle Guide

慣れていなければ、手返しが早い胴つき1本バリ仕掛けがおすすめだ。ハリスの太さは、胴つき仕掛けではあまり気にしなくていい。

当日のシロギス仕掛け



強風に苦戦

相変わらずシロギスはポツリポツリと食い続け、この分だと納竿時には30尾くらいかな、どこかで食いが立てば40尾超えも……と思っていたが、9時半ごろから急に風が強まり、船はドッタンバッタン。立って釣るのも危なっかしい状況。

予報より随分と早まった南の強風で、ペースはグンと落ちた。

なんたって、船が大きく揺れて仕掛けを安定させることができない。クッとアタリがあっても、船の揺れで竿先が動いてしまい、合わせのタイミングが狂ってしまう。だから、ククッ……あれっ？ クッ、グーッ……あれっ？ というケースが増えて、アタリがあってもなかなかパーフェクトにゲットできない。

泣きっ面に蜂とでも言おうか、そのころから仕掛けにアカクラゲの足が絡みつくようになってきた。仕掛けにアカクラゲが付いた状態だと、シロギスは食ってこない。水温が上がり始めた東京湾の毎年の出来事なのだが、ていねいに仕掛けから取り除いてやるしかない。僕は台所用スポンジを道具入れに常備しているがこれがアカクラゲ除去にとても便利だ。

右舷トモ氏が「大きいのが釣れたよ」と声をかけてくれたので、カメラを持って向かうと23センチ級のでっぷりと太ったシロギスだった。このサイズが何尾か交じればいいのだが……。

数日前に乗った右舷ミヨシ氏は「そのときは良型ぞろいで釣れたけど、今日は中型主体」と話していた。まあ、それは日にもよるのだろう。

さらに強くなる風の中で10時40分に納竿。僕は22尾をキープして、天ぷらと刺身の材料はなんとかなった。

右トモ氏が13尾。3人連れの若者は5尾、5尾、ゼロだった。ゼロだった青年になんとか釣ってほしかったが、掛かったシロギスが途中でバレてしまうなど、残念だった。

まあ3人とも楽しめたようなので、連休に再チャレしてほしいね。

年にもよるが、多分そのころからは港を出てすぐの八景～小柴沖で良型が食ってくれるようになると思う。狙う水深も、もう少し浅くなって、アタリも増えることと思う。

▼小気味いい引き味がクセになる

シロギスなどの小物釣りはナギ日が絶対！ お天気のよい日を選んで楽しんでいただきたい。

ちなみに、僕は娘家族たちと総勢7名で連休中のシロギス半日釣りを楽しむ計画。孫たちは、僕に勝とうと気合十分。負けてなるものか！

▲仕掛けに付いたアカクラゲは台所用のスポンジでこすると簡単に取り除ける

◉船宿information

東京湾奥金沢漁港

進丸

☎080・8042・3303

（詳細は巻末の情報欄参照）

近藤 博信船長

▶料金＝シロギス乗合午前・午後船一人6800円（エサ、氷1個付き、一日通し9500円）、女性・大学＆高校生4500円、中学以下3500円

▶備考＝午前船7時半、午後船12半出船。駐車場半日150円、ほかライトアジ午前・午後船に出船